

【臨床・研究】

過活動膀胱症状を有する女性患者に 対する塩酸プロピペリンとウラピジル による併用療法の有効性の検討

さね まつ ひろ み かき たか ゆき むら おか くに やす
実 松 宏 巳¹⁾ 垣 隆 之²⁾ 村 岡 邦 康³⁾
たか はし ち ひろ おお はた りょう いの うえ あけ みち
高 橋 千 寛⁴⁾ 大 畠 領⁵⁾ 井 上 明 道⁶⁾
いそ やま ただ ひろ わた なべ たけ し みや がわ いく お
磯 山 忠 広⁷⁾ 渡 邊 健 志⁷⁾ 宮 川 征 男⁷⁾

キーワード：過活動膀胱，女性，抗コリン剤，α1遮断剤，併用療法

要 旨

過活動膀胱（OAB）治療の第一選択薬として，現在抗コリン剤が汎用されている。しかし，抗コリン薬は副作用のため治療継続が困難な場合や治療効果が不十分な場合も経験する。今回，抗コリン剤（塩酸プロピペリン）とα1遮断薬（ウラピジル）を併用することにより，治療効果の向上が得られるかどうかを検討し，安全性についても確認した。

OAB症状を有する女性患者を対象とし，A群（抗コリン剤単独投与→α1遮断薬併用投与）とB群（併用投与→単独投与）に割り付け，自覚症状と残尿量の変化を検討した。

頻尿症状は併用投与群でより改善する傾向をみとめた。その他の項目は両群間で差はなかった。副作用は口渇・便秘・ふらつき・胃痛が各一例ずつ観察された。

今回の検討では，多くの項目において抗コリン剤単独投与で自覚症状の十分な改善が認められたが，頻尿症状については併用投与がより有用である可能性が示唆された。副作用については頻度も低く，単独投与，併用投与共に安全に使用することが出来るものと考えられた。

はじめに

過活動膀胱（overactive bladder; OAB）とは

「尿意切迫感を有し，通常は頻尿および夜間頻尿を伴い，切迫性尿失禁を伴うこともあれば伴わないこともある状態」とされている。ただし，他の疾患，例えば，膀胱癌・膀胱炎・膀胱結石・前立腺炎などは除外される。つまり，OABの診断は症状の確認と他疾患の除外でなされる¹⁾。

OAB治療の第一選択薬として本邦では塩酸プロ

Hiroimi SANEMATSU et al.

1) 安来市立病院泌尿器科 2) 加東市民病院 3) 鳥取厚生病院
4) 米子医療センター 5) 鳥取赤十字病院 6) 済生会境港病院
7) 鳥取大学

連絡先：〒692-0404 安来市広瀬町広瀬1931